

地域医療シンポジウム in もりまち

# 超高齢社会に対応する 新しい地域医療

平成28年 9月22日

浜松医科大学 医学部医学科 地域医療学講座

山岡 泰治

Photo by T. Yamaoka



## これからの医療？

- 超高齢社会に適した  
医療についてご説明します

Photo by T. Yamaoka



# 静岡県の医療の現状

## □ 県民は健康で長生きだが、医療従事者の数は少ない

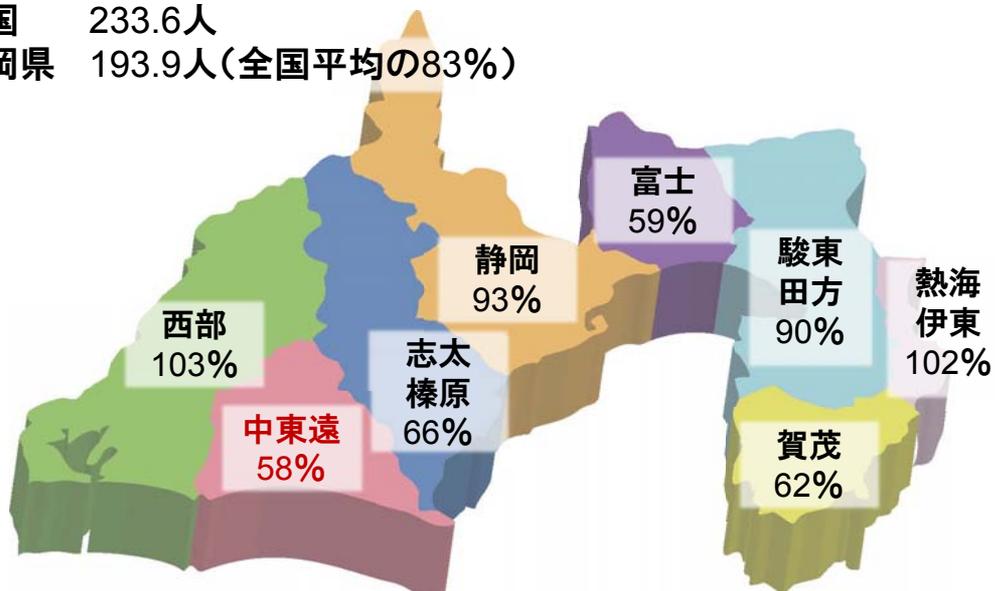
項目	データ年	静岡県	全国平均
健康寿命	平成25年	男72.13歳 女75.61歳	男71.19歳 女74.21歳
医師数 (人口10万人当たり)	平成26年	193.9人	233.6人
看護師数 (人口10万人当たり)	平成26年	787.4人	855.2人
医療従事者数(注) (人口10万人当たり)	平成24年	2,158人	2,672人

(注) 病院，一般診療所，歯科診療所，助産・看護業，療術業，医療に附帯するサービス業の従事者の合計数

# 静岡県の医師数の現状

## □ 医師不足とともに、医師の地域偏在も深刻

- 人口10万人あたりの医師数
  - ・ 全国 233.6人
  - ・ 静岡県 193.9人(全国平均の83%)

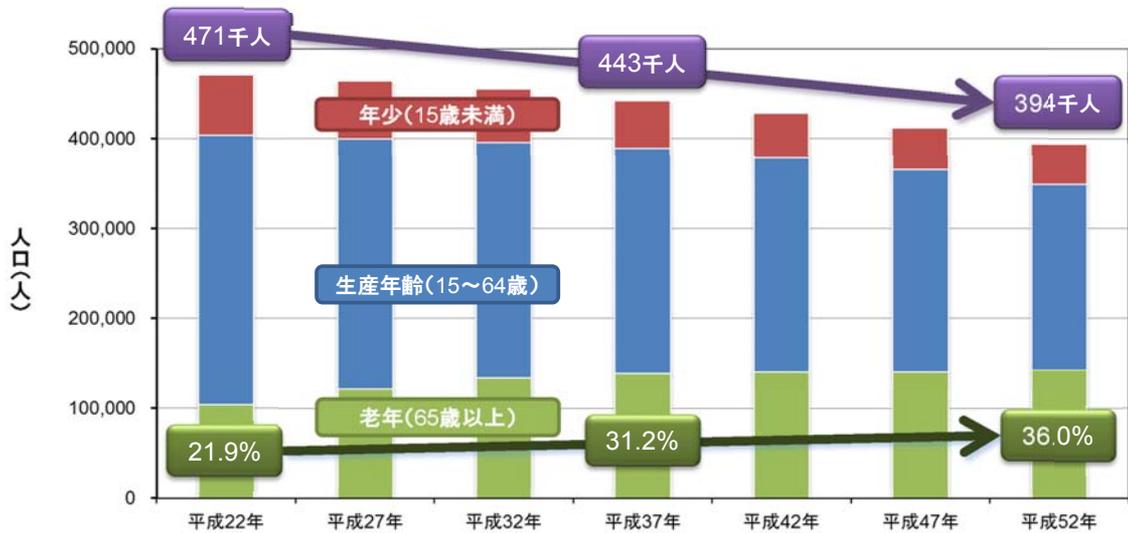


(資料) 「平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」(厚生労働省)

# 中東遠の人口の予測

□ 3つの年齢階層に分けて表すと・・・

- 総人口が減少
- 一方、高齢者(65歳以上)の割合は増加



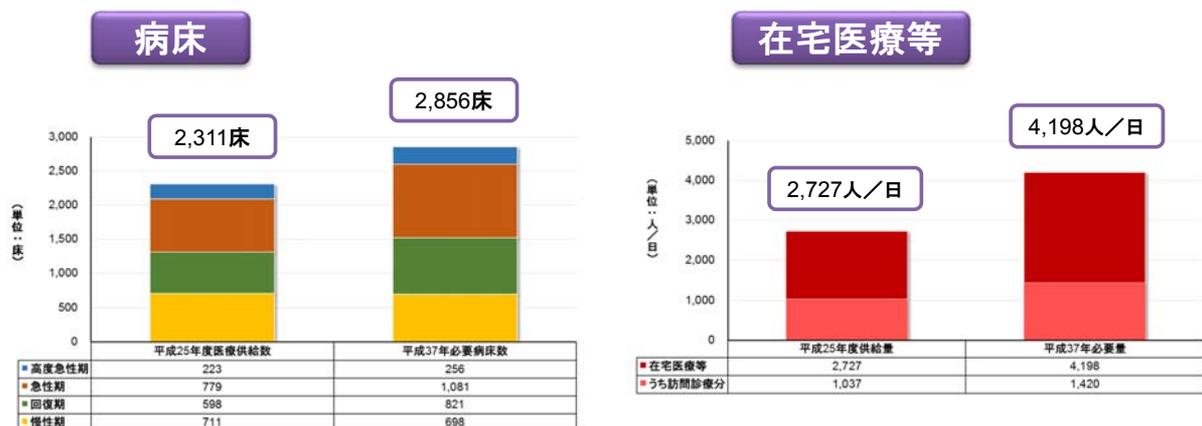
(資料) 「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)



# 地域医療構想

□ 平成37年(2025年)に向け病床の機能分化・連携を進めるために、静岡県が平成37年の医療需要を推計

□ 中東遠における平成37年の病床・在宅医療等の必要量



(資料) 静岡県「静岡県地域医療構想」平成28年3月



# 地域の安心に繋がる医療を実現するために

- 医療スタッフは不足
- 医療需要は増

+

- 多くの国民が、病気があっても住み慣れた家・地域で最期まで暮らしたいと望んでいる

地域の安心を  
確保するために

1. **医療機関**は、**医療の提供体制を**変革することが必要
  - 地域完結型医療の実現
  - 地域包括ケアシステムの構築
2. 超高齢社会に適した**医療職**を**養成**することが必要
3. **住民**は、心身の**健康づくり**に**努め**、**医療機関へのかかり方を見直す**ことが必要
  - 「5つの **か**」活動

# 地域の安心に繋がる医療を実現するために

## □3本の矢

- **医療機関**                      **地域完結型医療の実現**  
**地域包括ケアシステムの構築**
- **次代を担う若者**              **超高齢社会に適した医療職の養成**
- **住民**                              **「5つの **か**」活動**





# どのようなもの？

- 超高齢社会に対応する医療の体制は、どのようなものなのかについてご説明します

Photo by T. Yamaoka

浜松医科大学  
Hamamatsu University of Medicine

## 地域の安心に繋がる医療を実現するために

### □3本の矢

- **医療機関**                      **地域完結型医療の実現**  
                                         **地域包括ケアシステムの構築**
- 次代を担う若者              超高齢社会に適した医療職の養成
- 住民                              「5つの<sup>①</sup>か」活動



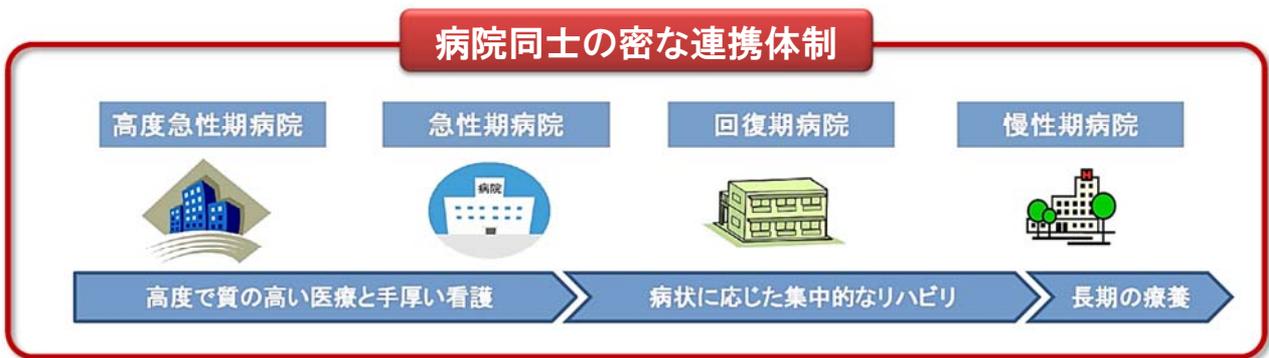
# 地域完結型医療

## □ これまで

- 病気やケガを一つの医療機関が治す「病院完結型医療」

## □ これから

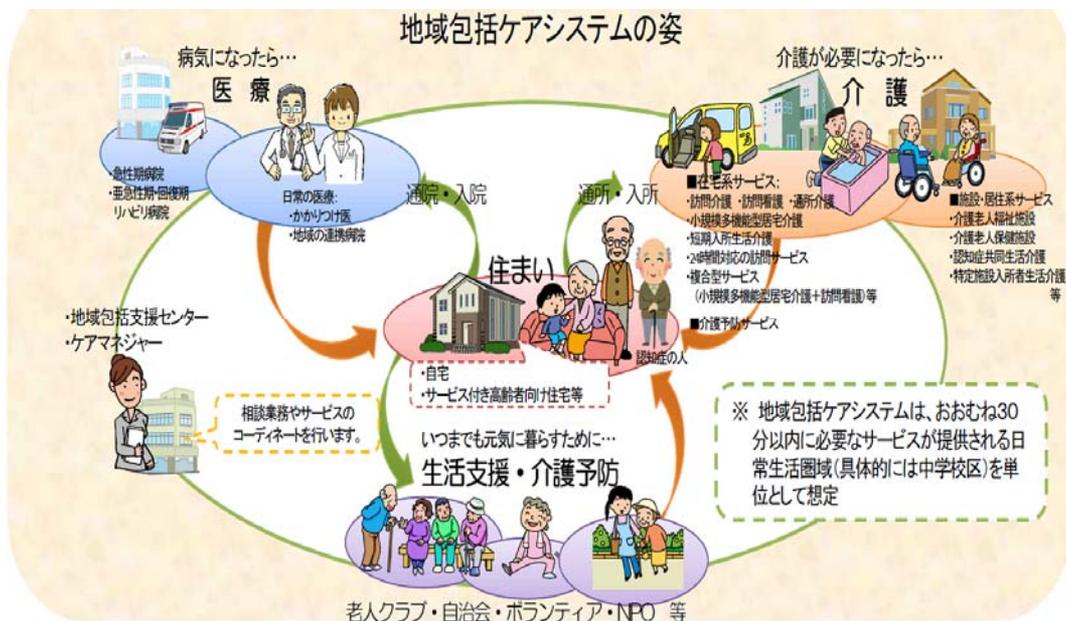
- 地域の医療機関が機能分化を進めて連携を強化し、地域の医療機関の総合力で治し支える「**地域完結型医療**」



(図出典) 厚生労働省ホームページ

# 地域包括ケアシステム

- 可能な限り**住み慣れた地域**で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、**地域単位で保健・医療・介護・福祉の専門家が連携**



(図出典) 厚生労働省ホームページ

# 地域包括ケアシステム

- 「住まい」での生活を基本としつつ、**日常の医療は「かかりつけ医」**で受け、**急性期の医療が必要になったら一時的に「急性期病院」**に入院



(図出典) 厚生労働省ホームページ

## かかりつけ医

- 私たちの願いは、
  - ◆ **健康で長生き**でき、わたしたちの**ニーズ**に合う医療サービスが**住み慣れた地域**で提供されること
- 実現するための**医療を提供する側の取り組み**は、
  1. **地域完結型医療の実現**
  2. **地域包括ケアシステムの構築**



- 「**かかりつけ医**」が、こうした取り組みの**中心的な役割**を担う

# かかりつけ医を選ぶポイント

## □ コミュニケーションを取りやすいこと

- 私たちの話をしっかりと聴いてくれる、病気・治療・薬に関して易しい言葉で説明してくれる、質問に対して丁寧に答えてくれる医師が、かかりつけ医にふさわしい
- 気軽に安心して病歴、体質、生活習慣を伝えて診療を受けることや、日頃の健康管理について相談することが可能に

## □ 他の医療機関との連携を取ってくれること

- 「地域完結型医療」の環に積極的に参加する医師が、かかりつけ医にふさわしい
- より高度で専門的な検査や治療が必要になった場合に、適切な医療機関で受診することが可能に

# 地域の安心に繋がる医療を実現するために

## □ 3本の矢

- |           |                             |
|-----------|-----------------------------|
| ● 医療機関    | 地域完結型医療の実現<br>地域包括ケアシステムの構築 |
| ● 次代を担う若者 | 超高齢社会に適した医療職の養成             |
| ● 住民      | 「5つの <sup>①</sup> か」活動      |



# 静岡家庭医養成プログラム

- 中東遠の3市1町(森町、磐田市、菊川市、御前崎市)からなる静岡家庭医養成協議会と浜松医科大学との連携のもとに運営され、家族ぐるみのかかりつけ医として全科診療を提供する**家庭医**を養成

将来に備える  
仕組みづくり

地域に必要な医師を  
地域の中で養成



## 共に育む

- 最後に、**住民が**地域医療を育む  
取り組みについてご紹介します

# 地域の安心に繋がる医療を実現するために

## □3本の矢

- 医療機関                      地域完結型医療の実現  
                                         地域包括ケアシステムの構築
- 次代を担う若者              超高齢社会に適した医療職の養成
- 住民                              「5つの **か**」活動



## 会場の皆様へ

□安心して生活するために「みんなで地域医療のことを考え、共に育む」ことが必要です

- 「みんな」の一人が、私たち「住民」です



# 住民が地域医療を育む5つの**か**活動

できることから始めませんか

1. 地域の医療事情について**関心**(かんしん)を持ちましょう
2. 健康、病気、医療について**学習**(がくしゅう)しましょう
3. **健康な体**(からだ)作りに取り組みましょう
4. 医療スタッフに**感謝**(かんしゃ)と**敬意**の気持ちを伝えましょう
5. 医療機関への**かかり方**を見直しましょう
  - ① 「かかりつけ医」を持ちましょう
  - ② 症状に応じて病院・診療所にかかりましょう
  - ③ コンビニ受診を控えましょう
  - ④ 救急車をタクシー代わりに使うことを止めましょう